

IT協 ニュース

LPガスIT推進協議会会報

2009年 秋号



目 次

- U-スマートメーターについて
佐野 裕昭・・・2頁
- 「めくばりくん」の商標登録について
小坂 恒夫・・・5頁
- ‘09 LPガス 安全・安心・ソリューション展の報告
阿部 剛・・・6頁
- 定例研究会の報告
・・・12頁
- 協議会近況行事の報告・お知らせ等
・・・13頁

LPガス用超音波ガスメータ「U - Smart」

佐野裕昭*

日本ガスメーター工業会50年史「計って守って50年」によりますと、我が国において膜式ガスメータは、明治37年3月(1904年)十文字大元氏が、当時東京高等工業高校校長手島精一氏の指導ならびに東京瓦斯株式会社社長工学博士高松豊吉氏の援助を得て、桑沢松吉氏とともに製造されたとの記載があります。この当時、米国においてはフォード自動車会社の設立や、ライト兄弟が飛行機で初飛行を行っており、又欧州においてはパリ万博が開催しています。国内においては、日本で初めての自働電話(公衆電話)の設置などがありました。

それから100年余りの歳月が流れ、今年弊社においては、LPガス用超音波ガスメータ「U - Smart (Uスマート)」を発売することとなりました。既に、LPガス用に先駆け都市ガスにおいては、東京ガス様及び東邦ガス様において、都市ガス用超音波ガスメータが市場導入されております。



EY25MT



EY4MT

原理

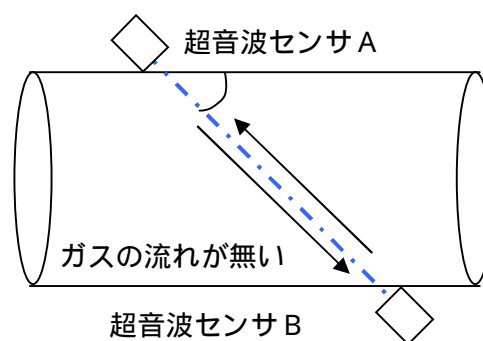
超音波ガスメータは、その名の表す通り、超音波によって計測することを原理としたメータです。一对の対向する超音波センサにより、超音波を発生させ、対向するセンサがその超音波を受ける迄の時間を計測しています。超音波は音波の一種であり物質中を伝搬します。物質とは気体、液体、固体であり、ガスメータの場合もちろん気体を伝搬することとなります。一般的には空気の場合でその速度は約345m/sec、LPGの場合は約280m/sec、都市ガスでは約425m/secとなっています。

超音波を発生及び受ける為のセンサには、セラミック圧電素子を用いております。

このセラミック圧電素子は、電圧を印加すると歪を生じ、超音波が発生し、又、その超音波を受けると電圧が発生するという特性があります。右図の様にガスの通路に対して斜め(ガスの流れ方向に対して角度)に対向して超音波センサを



超音波センサ



設置している場合で説明します。それぞれの超音波センサから超音波を発生させた場合、まず通路の中にガスの流れが無い場合にはA Bの到達時間とB Aの到達時間とは等しくなります。

次に、通路の中をガスが流速 v で流れる場合には、

A Bの到達時間 T_1 は、

$$T_1 = L / (C + v \cos \theta)$$

B Aの到達時間 T_2 は、

$$T_2 = L / (C - v \cos \theta)$$

ここで L はセンサAとセンサBの間の距離、 C は音速です。この2つの式より v を求めると、 $v = L / 2 \cos \theta \times (1 / T_1 - 1 / T_2)$ となり、ガスの流速 v は、距離 L と超音波センサの設置角度 θ と、到達時間 T_1 及び T_2 で表される式となり、音速の項は無くなります。距離 L や設置角度 θ は設計的要素であり固定されていますから、時間 T_1 と T_2 を計測することで、ガスの流速 v が得られることとなります。ガスの流量を Q 、通路の断面積を A とすると、

$$Q = v \times A \quad \text{で} Q \text{ が得られます。}$$

得られたガス流量 Q に通過している時間 T を乗じると通過体積を得ることができます。通過体積を V とすると、

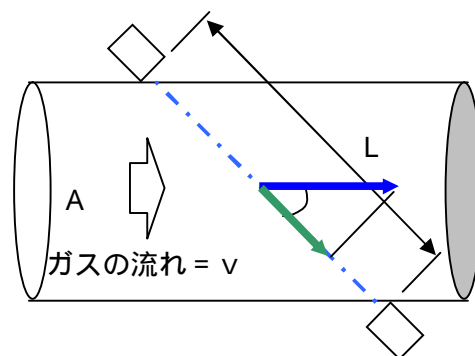
$$V = Q \times T$$

例えば、ガスの流れの無い場合のA Bの到達時間は、 $L = 0.09 \text{ m (9 cm)}$ 、LPガスでの音速が 280 m / sec の場合には

$$T = 0.09 / 280 = 321.4 \mu \text{ sec} \quad \text{となります。}$$

この時間を正確に計測する技術と、ガスメータの検定期間10年間使用できる為の低消費電力化技術並びに、ガス通路へ安定してガスを流す為の流路構造の設計技術が必要となります。このような計測関連技術を達成することで超音波ガスメータが誕生することとなりました。

従来の膜式ガスメータは、ガス圧による膜の往復運動をリンク機構により回転運動に変え、カウンタを回し計量値を表示すると共に、カウンタ内に設置されたマグネットと、メータ内に設置されたリードスイッチとで回転を検出し、流量換算を行い保安のロジック等へ活用する設計でした。リードスイッチの作動が流量検出のトリガーとなっている為、いわゆる「信号が入るのを待つ」方式でしたが、超音波式ガスメータは、使用期間中ずっと約2秒に1回ガスの通路の流れを能動的に監視する方式です。この方式の違いにより従来の膜部分が無くなり、大幅な小型・軽量化が実現され、ガス遮断後の復帰安全確認時間も最短で約1.7秒と短縮することができました。加えて最大使用流量 $2.5 \text{ m}^3 / \text{h}$ のガスメータと同サイズで $4 \text{ m}^3 / \text{h}$ のガスメータを実現することに成功致しました。主な特長を下記に示します。



1. 軽量・コンパクト 運搬・施工性が大幅に向上。メータボックス等限られたスペースへのメータ設置工事が容易になりました。又、環境への取組みにも充分配慮しています。
2. 4号メータ化への提案 床暖房や浴室乾燥・浴室暖房、ファンヒータにSiセンサコンロ等、消費者の快適ガスライフ提案をする為に家庭用4号メータは欠かせません。
3. 微少漏洩監視機能強化 従来30日に1時間のガス停止状態を確認する必要がありましたが、Uスマートでは14日に約2分のガス停止が10回分あれば確認できるようになりました。GHPやファンヒータ等、ガスが止まりにくいご家庭でも監視ができます。
4. 復帰時の安全確認時間短縮 最短で17秒の高速復帰を実現しました。ガスが使えるようになるまでお待たせしません。
5. 液晶表示による各種表示 復帰ボタン操作だけで、「流量区別積算値」「継続使用量積算値」「指定曜日・時間帯積算値」並びに、「現在圧力値」や圧力異常があった場合の「異常圧力値」が見える様になり現場での確認時間の短縮や、戦略的な割引サービスの提案が可能です。

おわりに

自動車エンジン ハイブリッドへ、そろばんが電卓へ、機械式時計がクォーツや電波時計へと様々な物が進化をし、人々の暮らしを快適にしてきました。今後この超音波式ガスメータ「Uスマート」が、ガス事業者様、消費者の皆様のご快適な暮らし提案の一助となれば幸いです。

* 矢崎総業株式会社 環境エネルギー機器本部
ガス機器事業部 ガス企画部 部長



「めくぱりくん」の商標登録について

小坂恒夫*

当協議会では経済産業省のご指導の下、本年1月から4月にかけて「認定販売事業者」愛称検討委員会（座長：兵頭美代子主婦連参与）の事務局として活動をしてきました。愛称は消費者にわかりやすい名称として「高度保安システム認定事業者」、「めくぱり君」に決定し、これを契機に、液化石油ガス認定販売事業者制度を消費者の方にもっと認知していただけるよう、当協議会の活動を進めているところです。

その一環として決定した名称のうち、「めくぱり君」をLPガス業界が独占的に使用できるよう商標登録申請を行った結果、下記のとおり商標が登録されました。具体的運用につきましては当局、関連団体等との調整を図ったうえで皆様にお知らせしたいと考えております。

1、登録番号及び登録日

登録第5274494号 平成21年10月23日

2、商標

めくぱり君

3、指定商品又は指定役務並びに商品及び役務の区分

第35類 燃料の小売又は卸売の業務において行われる顧客に対する便益の提供

第42類 LPガス販売における保安の役務の質の認定基準への適合性について

4、商標権者

特定非営利活動法人LPガスIT推進協議会



*NTTテレコン(株) 営業本部 大口顧客担当部長

‘09LPガス 安全・安心・ソリューション展の報告

阿部 剛*

当協議会が企画・主催する‘09LPガス 安全・安心・ソリューション展が9月8日(火)東京(都立産業貿易センター)、11月6日(金)大阪(伊丹シティホテル)で昨年と同様、後援：経済産業省、協賛：業界中央10団体、協力：東京都エルピーガス協会(東京会場)、LPガス事業研究会(大阪会場)、石油産業新聞社のもとで開催されました。

直江代表理事の開会の挨拶で始まり、東京約600名、大阪約500名の来場者を迎えて、展示会場、プレゼンテーション発表会場ともに盛況でした。

また、原子力安全・保安院 液化石油ガス保安課による基調講演「最近のLPガス保安行政について」は、東京会場は北沢信幸課長、大阪は林崎公德課長補佐にお願いし、両会場とも熱心な聴衆で溢れました。両講演は、下に概要を掲載します。

出展者は東京会場24者、大阪会場22者、プレゼンテーションは東京会場13者、大阪会場14者と昨年とほぼ同数となりました。

来場者のアンケート結果では出展者・聴講者の双方から「発表の時間をもっと長くして欲しい」との要望が出されていますが、発表を希望する出展者が多く難しい課題となっています。展示会と出展者によるプレゼンテーションを同時進行するスタイルは今年で3年目になりますが、出展者、来場者から概ね好感を持って受け入れられているようです。来年の開催については東京89.3(252回収)、大阪90.2%(163回収)が来年も来場したいと応えており、ビジネスと情報収集の場として期待されているものと思われま

す。業界の発展に少しでもお役に立てるように、来年度も東京、大阪での開催を予定しております。多くの企業・団体の出展と多数のご来場者を期待しております。

最後に後援、協賛、協力をいただいた経済産業省・業界関係団体、出展にご協力いただきました企業・団体の皆様に厚くお礼申し上げます。

実施要領

実施日	東京：平成21年9月8日(火)	・	大阪：平成21年11月6日(金)
場所	東京：東京都立産業貿易センター	・	大阪：伊丹シティホテル
後援	経済産業省		
協賛	高圧ガス保安協会、(財)エルピーガス振興センター、日本LPガス協会、(社)エルピーガス協会、(社)日本簡易ガス協会、(社)日本ガス石油機器工業会、(社)日本エルピーガス供給機器工業会、日本ガスメーター工業会、ガス警報器工業会、金属フレキガスコネクター協会、日本火災報知機工業会		
協力	東京都エルピーガス協会(東京会場)、LPガス事業研究会(大阪会場)、石油産業新聞社		

基調講演 「最近のL P ガス行政について」

経済産業省 原子力安全・保安院 液化石油ガス保安課 北沢信幸課長(東京会場) 林崎公德課長補佐(大阪会場)

出展者 愛知時計電機(株)(東京会場) 伊藤工機(株)、(株)イングコーポレーション(東京会場) (株)インフォテック・ソリューションズ(東京会場) NTTテレコン(株)、L P ガス安全促進協議会、(株)桂精機製作所、L P ガスI T 推進協議会、ガス警報器工業会、(株)金門製作所、新日本石油(株)、(株)セフティーネクスト(大阪会場) 新コスモス電機(株)(大阪会場) (株)システムアンドリサーチ、中国工業(株)、東京ガス(株)(東京会場) (株)ティージー情報ネットワーク、東洋計器(株)、東芝メーターテクノ(株)、北国コンピュータ、パナソニック(株)、(株)マルトウコンパック、三菱伸銅(株)(東京会場) 矢崎総業(株)、リコーエレメックス(株)、リンナイ(株)(大阪会場) (株)ノーリツ、

展示・プレゼンテーション(東京会場)

セミナー第1会場

時間	テーマ	発表者
11:10~11:40	CO警報器の普及について	ガス警報器工業会
11:45~12:15	L P ガス業務システムの戦略的活用	北国コンピュータ(株)
13:15~13:45	L P ガス容器の動向	中国工業(株)
13:50~14:20	改正消安法施行に伴うL P ガス関連事業者様へのお願いと弊社の取組	(株)ノーリツ
14:25~14:55	集中監視システムを活用したエネルギー使用量の見える化によるCO2削減について	NTTテレコン(株)
15:00~15:30	低炭素社会に向けたCO2の見える化 -L P ガスメーターの取組み-	リコーエレメックス(株)
15:35~16:05	ライフライン対応型共同利用センターのご紹介	(株)ティージー情報ネットワーク

セミナー第2会場

11:10~11:40	e ガスモデルと「オール無線システム」普及型・広域型	東洋計器(株)
11:45~12:15	簡易ガスのデータ伝送システム	(株)金門製作所
13:15~13:45	Web 型L P ガス保安業務管理システムによる保安業務改革の提案	(株)インフォテック・ソリューションズ
13:50~14:20	バルク貯槽ガス回収システムの開発について	(株)桂精機製作所
14:25~14:55	超音波ガスメーター『U-Smart』について	矢崎総業(株)
15:00~15:30	時代の変化を味方につける - 水HOD顧客獲得代行サービス開始 - - 決済の多様化“請求書もWEBの時代へ” -	(株)システムアンドリサーチ

展示会場・セミナー会場の様子



展示会場 1



展示会場 2



展示会場 3



セミナー会場

展示・プレゼンテーション(大阪会場)

セミナー第1会場

時間	テーマ	発表者
11:10~11:40	簡易ガスのデータ伝送システム	(株)金門製作所
11:45~12:15	業務用厨房における電化対策	リンナイ(株)
13:15~13:45	低炭素社会に向けたCO ₂ の見える化 -LPガスメーターの取組み-	リコーエレメックス(株)
13:50~14:20	超音波ガスメーター『U-Smart』について	矢崎総業(株)
14:25~14:55	顧客ニーズにすばやく対応 - 水HOD顧客獲得代行サービス開始 - - 決済の多様化 “請求書もWEBの時代へ” -	(株)システムアンド リサーチ
15:00~15:30	LPガス業務システムの戦略的活用	北国コンピュータ(株)
15:35~16:05	集中監視システムを活用したエネルギー使用量の 見える化によるCO ₂ 削減について	NTTテレコン(株)

セミナー第2会場

11:10~11:40	改正消安法施行に伴うLPガス関連事業者様へのお願いと弊社の取組	(株)ノーリツ
11:45~12:15	バルク貯槽ガス回収システムの開発について	(株)桂精機製作所

13:15～13:45	LPガス容器の動向	中国工業(株)
13:50～14:20	ガス警報器(CO警報器)の普及について	ガス警報器工業会
14:25～14:55	eガスモデルのご提案と「オール無線システム」普及型・広域型	東洋計器(株)
15:00～15:30	義務化近づく！ 住宅用火災警報器による地域貢献ビジネスチャンスを掴め！	新コスモス電機(株)
15:35～16:05	電化住宅から生まれたセキュリティー	(株)セフティーネクスト

展示会場・セミナー会場の様子



展示会場 1



展示会場 2



展示会場 3



セミナー会場

講演の概要(東京会場)

最近のLPガス保安行政について

北沢信幸**

本日は、1.平成20年の事故の概要 2.業務用厨房のCO中毒事故 3.6月に山口県で起きたホテルのCO中毒事故の3点についてお話したい。

まず、事故発生状況だが、昭和54年の年間793件からマイコンメータやガス漏れ警報器の設置普及により平成9年の68件まで事故は減少してきたが、18年以降200件を超えている。

これは端的にいえば、パロマの事故により小さなトラブルでも報告されるようになったということで我々は補足率の向上と呼んでいるが、同時に事故が減っていないということでもある。

昨年7月、保安院のガス関連3課が共同して、事故に共通する要因の洗い出しを行ったが、LP ガスについては、業務用が増えている、集中監視システムを普及すべきだが、設備投資が増えることから販売店サイドの熱が入らないのではないが、設備の経年劣化への対応が必要、という3点が共通認識で、総じて、リスクマネジメントの考え方を導入して予防安全の意識の普及を促進すべきということであった。



北沢課長



講演会場の様子

さて、事故レベルA・B・CのうちB以上は公表義務のある重大事故であるが、20年に4件あったものが今年には既に今日までに6件発生し、内4件がCO関連である。

1月：鹿児島県の高校で発生した調理実習での18名の事故

6月：新聞でも報道された山口県のホテルでの22名（内1名死亡）事故。

7月：福岡県のモスバーガーで連続して2件、計12名の中毒者を出した事故。

6月：石川県の小学校の給食室のメンテ工事で業者が2名死亡した事故。

その他の事故等を含めて共通しているのは、業務用厨房の機器を原因とするCO中毒事故であることである。いずれも警察・消防等と共に原因調査を行い、対応・対策については関係省庁、業界団体、消費者団体、関連施設等に連絡し注意を喚起している。

年末、冬場へ向かって事故の増加が懸念されるので、今後の重点課題として、業務用厨房等のCO事故の防止、ガス販売事業者の安全意識の向上と保安活動の促進、消費者への安全注意喚起の3点を引き続いて行って行きたい。

**経済産業省 原子力安全・保安院 液化石油ガス保安課長

講演の概要(大阪会場)

最近のLPガス保安行政について

林崎公德**

今日は、1.平成20年のLPガス事故発生状況、2.業務用厨房でのCO中毒事故の動向、3.山口県のホテルでのCO中毒事故、4.LPガスの保安高度化のための調査研究として、皆様方に関係の深い集中監視システムによるLPガスの燃焼機器の自動識別・監視・通報システムの開発についてお話をしたい。

まず、1、の20年のLPガス事故は232件で、昭和54年の793件をピークに減少してきた事故数が、18年以来年間200件を越えるようになった。これは、パロマの事故以来、補足率が向上した為と思われる。事故原因としては、消費者の器具の誤操作や工事ミスなど販売店の不適切なサービスによるものが多い。



林崎課長補佐



講演会場の様子

次に、2、業務用厨房におけるCO中毒事故が増加している。20年のLPと都市ガスの消費段階の事故総件数は266件で死亡者は8名であるが、今年の業務用厨房でのCO中毒事故は19件と昨年の14件を上回る事故が既に発生している。特徴は、換気不足や設備機器の手入不十分など初歩的なミスによる事故が多く、調理等のプロがプロたりえなくなっているのではないかと危惧している。冬場に向かって増加が懸念される状況である。また、鹿児島県の県立高校で、調理実習中に18名がCO中毒で病院に搬送される事故が起きた。平成10年以降1件の事故としては最大の被害者である。原因は、窓を閉めたまま換気扇を使用した為、負圧でCOが逆流したものである。

3、の山口県のホテルにおけるCO中毒事故では、22名が病院に搬送され1名が亡くなった。

当院は、原因究明のため高保協、当院等から成る調査チームを派遣し警察・消防と共に原因調査を行ったが、煙突に金属製のフタがかぶせてあったという異常な状況が原因であった。

その後、東大の土橋教授を座長とする原因調査・再発防止検討委員会を設置し、検討を重ねている。関係省庁、機器業界団体、ホテル旅館等関連事業者には、状況説明と注意喚起を行った。

最後に、上記の事故を未然に防止する為、昨年より集中監視によるLPガス燃焼器の自動識別システム技術の開発を進めている。

これは、一般家庭の使用燃焼器の台数や使用状況を自動的に識別し、電子式メーターを利用して不適切な使用を判定し、CO警報器に連動してCOの発生を検知して警報を発生するシステムの開発を行うもので、システムの有効性調査を手始めに、フィールドテストまでを22年中に行い実用化を目指している。

ガス業界のIT化の推進は、消費者の保安向上に貢献するところが大きいものと期待しており、本会の発展を祈念するものである。

** 経済産業省 原子力安全・保安院 液化石油ガス保安課課長補佐

* NPO法人 LPガスIT推進協議会 理事

定例研究会の報告

NTTコミュニケーションズ貞田洋明様に、「IPv6(インターネットプロトコルバージョン6)と広域センサーネットワークへの取組」と題してお話をいただき、約30名の参加者が熱心に拝聴しました。

IPv6問題と広域センサーネットワークへの取り組み

貞田洋明*

IPv6は当初、新しいインターネットとして情報家電にどう使うかという観点から検討が始まったが、最近では現行のインターネットのアドレス不足への対応、という点から取上げられているようだ。つい最近の日経新聞に、ICANNが「現行のv4のアドレス割り当ては2010年10月で枯渇」といったという記事が出て関係者の間で騒ぎになった。というのは我々の計算ではそれは2011年のはずで、ICANNに問い合わせたところ誤りだということだった。

今日は、IPv6を広域センサーネットワーク実現にどう使うか、という切り口からお話をしたい。

既にいろいろなシステムがインターネットに繋がっているが、まだまだ電話回線を使ったシステムが多い。日本では、ビルファシリティなどでインターネットを利用したシステムを提案してもコストアップになる、あるいはセキュリティーの確保に問題があるということで中々進まない。

これらのサービスには機器ごとのアドレスが必要であるが、現行のIPv4のアドレスは総数43億個。現在の世界人口は68億人であるから、一人に1個ゆきわたらない。今後アドレスの需要は益々増え枯渇が心配される。「枯渇時計」なるものがインターネットで見られるが、現在、世界で1時間に3万2千件が払いだされている。



さてv6の特徴であるが、なんといってもアドレス数が巨大である。

v6は、0からFの16進法で、データ長でいえばv4の32bitから128bitへ拡張された。

v4は2の32乗で43億個、v6は2の128乗で340澗(かん - 340兆の1兆倍の1兆倍)。

長さに例えれば、43億を1ミリとすると340澗は銀河系の直径の8万4千倍となり、事実上無限といえる。実は、v6は既にいろいろなところに入

っている。

サービスでいえば当社のフレッツサービスや緊急地震速報、製品で言えば薄型テレビなどの家電製品、またパソコンはウィンドウズXPからv6が入っているがいずれもインターネットに繋がるスイッチが

入っていないという状況である。

さて、v6 の課題だが、まずいえる事は v4 と v6 は互換性がない。しかし、v4 のアドレスはそのまま使える。v4 のユーザーが相当数いることから、v4、v6 の並存期間は 20 年から 30 年は続くだろうといわれている。

最後に、センサーネットワークへの応用であるが、ビルファシリティ分野では、v6 による M2M の実験を既に行っている。例えば、東京都美術館ではビル管理用の LAN に外部からアクセスしてうまく動いている。また、遠隔検針に使った事例として、高知県の全農で LPG に使い成功している。また、エコの分野でも v6 を使ってデータ収集や監視、それに基づく制御などさまざまな新しいサービスが提供できるようになる等、大きな可能性を持つものと思われる。

* NTT コミュニケーションズ(株)

先端 IP アーキテクチャセンタ 担当部長

協議会近況行事の報告・お知らせ等

9/8	<p>展示会・セミナー開催</p> <p>テーマ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>‘ 09 LP ガス安全・安心・ソリューション展 出展各社によるセミナー併設</p> </div> <p>企画主催 NPO 法人 LP ガス IT 推進協議会</p> <p>後援 経済産業省</p> <p>協賛 高圧ガス保安協会、財団エルピーガス振興センター、日本 LP ガス協会、(社)エルピーガス協会、(社)日本簡易ガス協会、(社)日本ガス石油機器工業会、(社)日本エルピーガス供給機器工業会、日本ガスメーター工業会、ガス警報器工業会、金属フレキガスコネクター協会、(社)日本火災報知器工業会</p> <p>協力 (社)東京都エルピーガス協会、石油産業新聞社</p> <p>基調講演 「最近のエルピーガス保安行政について」</p> <p>講師 原子力安全・保安院 液化石油ガス保安課 課長 北沢信幸氏</p> <p>場所 都立産業貿易センター</p>
9/11	IT 協ニュース 2009 年夏号刊行
10/27	<p>定例研究会</p> <p>テーマ 『広域センサーネットワークを実現する IPv6 の動向』</p> <p>講師 NTT コミュニケーションズ(株)</p>

	<p style="text-align: center;">先端 IP アーキテクチャセンタ 担当部長 貞田洋明氏</p> <p>場所 愛宕山弁護士ビル 地下1階 第3会議室</p> <p>時間 13:30~14:30</p>
10/27	<p>理事会</p> <p>場所 当協議会事務所</p> <p>時間 15:00~17:00</p>
11/6	<p>展示会・セミナー開催</p> <p>テーマ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>‘09 LP ガス安全・安心・ソリューション展</p> <p>出展各社によるセミナー併設</p> </div> <p>企画主催 NPO 法人 LP ガス IT 推進協議会</p> <p>後援 経済産業省</p> <p>協賛 高圧ガス保安協会、財団エルピーガス振興センター、日本 LP ガス協会、(社)エルピーガス協会、(社)日本簡易ガス協会、(社)日本ガス石油機器工業会、(社)日本エルピーガス供給機器工業会、日本ガスメーター工業会、ガス警報器工業会、金属フレキガスコネクター協会、(社)日本火災報知器工業会</p> <p>協力 LP ガス事業研究会、石油産業新聞社</p> <p>基調講演 「最近のエルピーガス保安行政について」</p> <p>講師 原子力安全・保安院 液化石油ガス保安課 課長補佐 林崎公德氏</p> <p>場所 伊丹シティホテル</p>
11/12	<p>集中監視システム新バージョンの検討・標準化会議</p> <p>第1回研究部会</p> <p>場所 愛宕山弁護士ビル会議室</p> <p>時間 15:30~17:30</p>
11/25	<p>IT協ニュース2009年秋号刊行</p>
12/1 (予定)	<p>定例研究会</p> <p>テーマ 「関西電力株式会社の進める新計量システムについて」</p> <p>講師 関西電力(株) 電力流通事業本部ネットワーク技術高度化推進グループ マネジャー 杉本崇行氏</p> <p>場所 愛宕山弁護士ビル 地下1階 第3会議室</p> <p>時間 13:30~14:40</p>
12/1 (予定)	<p>理事会</p> <p>場所 当協議会事務所</p> <p>時間 15:00~</p>

12/3 (予定)	見守り共同サービス検討委員会 第1回検討委員会 場所 当協議会事務所 時間 13:30~15:30
12/24 (予定)	集中監視システム新バージョンの検討・標準化会議 第2回研究部会 場所 尚友会館ビル8階 時間 13:30~15:30

編集後記

年間の最大イベントである「'09LP ガス安全・安心ソリューション展」が成功裏に終了してホットしている間もなく、「集中監視システム新バージョンの検討・標準化」の第1回研究部会が11月12日に開催され、既会員及び今後、新たに会員になっていただけそうな48名のご参加をいただきました。

参加者各位には狭隘な会場で甚だご迷惑だったであろうことを思いつつも、今後の研究部会が更に盛り上がる気配が感じとれる有意義な部会であったと思います。

今回の会場は広くゆったりとした場所を選定し、十分な議論ができる環境を準備したいと考えておりますのでどうぞよろしく願いいたします。

さて、巷では相変わらず CP 価格の高騰、オール電化等諸課題が山積している中で、新政府の CO2 削減目標である 2020 年で 1990 年比 25%減実現にむけ、様々な具体策が打ち出されるものと思われますが、ガス配送の最適化による CO2 排出削減を行うためには集中監視システムも必要になります。これを機に集中監視システム導入の機運の再燃に大いに期待をしたいと思います。

今年も残すところ1ヶ月余り、会員各位におかれましてはご自愛され、お元気で新年をお迎えになれるようお祈り申し上げます(小坂)

.....

会報名 IT協ニュース 2009年秋号(2009-11-25発行)

発行 NPO法人 LPガスIT推進協議会 発行人 直江重彦

東京都港区虎ノ門2-6-13 三木虎ノ門ビル 電話 03-3591-9686 FAX03-6240-4664

URL : <http://itkyo.or.jp>

E-mail t.abe@itkyo.or.jp

